

# 里親なら

(題字)  
福福守・多川俊典書



### (主な内容)

- ・里親制度をめぐる最近の動き (1)
- ・私の里親観 (2)
- ・奈良県里親会の活動 (2)
- ・奈良県の動き (5)
- ・結婚・子育て (5)
- ・子育ての広場 (6)
- ・里親を考えるついで (6)
- ・子育てのフロンティア (8)
- ・あしらせ・編集後記 (8)

第2号 2007年12月1日  
 発行 奈良県里親会  
 住所 奈良市紀寺町833  
 奈良県中央子ども家庭相談センター内  
 TEL 0742-26-3788  
 FAX 0742-26-5651  
 (ホームページ)  
<http://narasatooya.jp/>  
 (携帯用ホームページ)  
<http://narasatooya.jp/kaitai.html>

この会報は、独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者」事業の助成金で作られました。

## 里親制度をめぐる最近の動き

奈良県中央子ども家庭相談センター

所長 岸 岡 靖 郎

### 【児童相談の現状】

こども家庭相談センターには、子どもの発達や成長、夫婦間・家族内のトラブルなどに関する様々な相談が寄せられます。その中でも、最近、特に深刻なのが児童虐待です。原因は、親の生育歴、夫婦間が不安定であるなどの家庭の状況、親自身の社会からの孤立感、そ

が援助にあたることは難しいものの、家庭に近い環境のもとで個別的な処遇により、親密な人間関係を築くことができます。いう特徴があります。

### 【被虐待児への対応】

虐待で傷ついた子どもへの心のケアをするには、子どもにとって安心できる望ましい環境を整えなければなりません。子どもが健やかに育つ上で、幼児期に「大切にされている」「自分が愛されている」という経験をすることは非常に大切なことです。特に、虐待された子どもは、親の愛情を受けて育つ経験が乏しかったわけですから、子どもがたくさんの愛情を感じ、受けとめることができる生活環境が望ましいと考えています。

### 【社会的養護体制に関する構想検討会中間とりまとめ】

さらに、本年5月に公表された厚生労働省の「今後目指すべき児童の社会的養護体制に関する構想検討会」では、虐待を受けた児童や障害児らへの支援強化策として、家庭的な環境の中で子どもを預かることができる里親や小規模な施設の拡充を求める中間報告がまとめられました。

平成14年には児童福祉法上に「里親」が明文化され、社会的な養護を必要とする子どもを、より

家庭に近い環境で、きめ細やかな対応が可能となる「里親」へ大きな期待が寄せられることになりました。また、専門的な知識と技術を持った里親が、被虐待児や非行児を対象に親密な援助を行う「専門里親」の制度が創設されました。

した里親の区分、③里親手当、里親研修の充実、④マッチング（里親と里子との委託調整）のための児童相談所の体制確保、⑤専門里親の拡充等の具体的な施策が提案されています。以上のように、社会的な支援を必要とする子どもたちをとりまく環境が

大きく変化している中、里親制度が見直され、その役割に一層の期待が寄せられています。今後、センターとしても、国の動きにも注目しながら、子どもたちの幸せのために努力してまいりますので、里親制度に一層のご理解とご協力をお願いします。



(小学校3年・Yちゃん作)

### 【社会的養護】

親から深刻な虐待を受け、安全が確保されない場合は、一旦、家族を離れ、児童養護施設や乳児院などの「児童福祉施設」や「里親」のもとで生活することになります。

児童福祉施設には、長年の歴史と経験、職員間の連携があり、また集団生活を通して安定した処遇が期待できるなど多くのメリットがあります。

一方、里親は、施設のように複数の専門的な者

## あなたも、里親になって下さいませんか？

### 里親の種類

#### 養子里親

- ・特別養子縁組・・・原則、6歳未満の児童が対象
- ・養子縁組

#### 養育里親

- ・養育里親・・・要保護児童を養育する里親
- ・短期里親・・・1年以内の短期間、養育する里親  
 (週末・季節里親・・・施設児童を対象とした里親)

#### 専門里親

・・・被虐待児等を預かり専門的に援助する里親

#### 親族里親

・・・里子を3親等内の親族に限定した里親



## 私の里親観(2)

大津市里親会  
副会長 村田 潔

## (前号あらず)

養子縁組のための里親登録をしましたが、共働きで子育てをしたという思いが理解してもらえず、それでも子育てがしたいと、児童養護施設で生活する子どもを週末だけ預かる「週末里親」を始めました。

その中で、平成4年の暮れA君と出会い、年末年始をいっしょに過ごした最後の日、「おうちの家の家にも泊まりたいわ」とA君が言ったのです。

「心に残る言葉」  
「思い出となれば、みんな美しく見えるとよく言うが、その意味をみんなが間違えている。僕等が過去を飾り勝ちなのではない。過去の方で僕等に余計な思いをさせないだけなのである。思い出が、僕等を一種の動物である事から救うのだ。」(小林秀雄)

「無常といふ事」より

施設長を説得して、その子が小3になる4月から施設に籍を置いたまま、私たちの家から学校に通うようになりました。授業が終われば一旦施設に帰り、私の仕事が終わった後、勤務先より迎えに行くという繰り返しです。妻は私たちより帰宅が遅く、夕食は遅くなりますが、今日一日の出来事を聞いてあげながらの食事は、本当に楽しいものでした。そして、その年の12月、措置変更により、児童相談所から正式にその子を、私たちの里子として受託しました。その後も放課後は、施設や学童保育所そして地域の方々の世話を受けながら小学校を卒業し、中、高校時代は部活に夢中になり、そして現在、大学の2回生になっています。そして「養子里親」でスタートした私たちは、「週末里親」を経て「養育里親」としてその子を預かり、18歳で里親・里子の関係は終了しましたが、その子がいない生活は、今では考えられないくらい、家族の一員になってしまっています。しかし私たちの家を巣立っていく日は、直ぐそこまで近づいています。

「週末里親」は里親会の働きかけもあって、滋賀県として平成17年に制度化され、里親宅で週末を迎えている子どもたちが増えており、今も私たちの家に、幼稚園の子どもの子がやって来ます。「週末里親」として私たちが関わってきた子どもたちも大きくなり、現在、親元に帰ったり、自活したりしており、時たま、週末に泊まりに来ます。

そして、私たちが関わった子どもたちには教えることがたくさんあり、「育て育てられた」という言葉が、一番ピッタリする

ような気がしています。

老人介護の仕事をしている妻も、水環境の仕事をしている私も、定年が近づいており、定年後の生きかたを今、考えています。

子どもは意識化され、都市人間となっていくますが、まだまだ自然性を多分に残しており、老人は自然に還るために、昔持っていた自然性を思い出そうとしています。そこで「老人は子どもとの

## 奈良県里親会の活動

## 里親情報交換会を開催 (あしや(り)広場)

5月11日

里親とその家族などが集まって、互いに交流し情報交換を目的に、愛称「おしゃべり広場」を社会福祉法人天理をお借りして、計6回(第3木曜日)開催し、13組、延べ72人の方が参加しました。

情報交換会に参加された方の感想の一部をご紹介します。

○里親として、現在奮闘中の方々の近況や悩みなどに、過去に経験された里親さんの実体験がアド

ふれあいにより、子どもから自然性を思い起こされ、逆に子どもは老人から、老人が子どもだった時代から連なる文化を伝承される」という関係が成り立ちます。

私たちの住んでいるところでは、まだまだ田んぼや畑があり、土手や公園、鎮守の森には四季折々に変容する樹木があります。そして少し歩くと川のせせらぎが聞こえ、里山には雑木林が生い茂り、鳥

や小動物の棲みかになっています。

このような自然のふとこころで、老人と子どもたちがふれあえる場所を提供し、自然の好きな私たちも、その中で年老していくイメージが定着しつつあります。



うちのねこ

ごく普通の井戸端会議なのですが、気兼ねなくおしゃべりでき、参加しやすいです。

○いつも思うのは、実子があつての里親さんと、実子がいない里親さんとの壁です。壁が本当にあるのかないのか分からないうし、あつたところで、それが厚いものか薄いものかも分かりません。

しかし、子どもは実子でも里子でも、求めているものは同じで、育つ中で困難があるのも同じだと思えます。育児経験や、困った時のコツなどを交換して、子育てしやすい環境につながっていくらと思えます。





熱心に講演に聞き入る参加者のみなさん

### 第1回里親セミナー を開催 — 7月

7月8日(日)、午後1時から、奈良県社会福祉総合センター5階を会場に、第1回里親セミナーが開催され、70余名が参加しました。

セミナーでは、挨拶、里親制度の説明、「子どもたちの命を見つめて」と題して家庭養護促進協会理事・岩崎美枝子先生

○雑談する中で、交流も深まり、子ども同士も親しくなり、楽しいひと時を過ごさせていた。だきました。  
特別養子の手続きする中で、他人には相談できない悩みも出てくるので大切な場だと感じています。皆さんと一緒に、元気に乗り切れるかなと感じ

○同じ立場の仲間がいるという安心感は、とてもよい励ましとなります。テーマを決めずやっていますが、毎月テーマを変えて、例えばお医者さんの評判だったり、子どもの遊び場だったりして、もいいかもしれません。○楽しいおしゃべり広場

の講演、2名の里親さんの体験発表がありました。講演では、「養子縁組の親子は前世でも親子であったという説を信じた」というお話や、「生みの親と子どもの別離」という、避けて通ることのできない現実を直視しても、出来る限り子どもたちに分かる言葉で説明してやってほしいというお話に、共感しました。

また、生みの親が子どもとの別離後であっても、自らの子(里子)となっても(に)会ってあげるということ、子どもの情緒を安定させ、精神形成にも大きく役立つという、最近の研究も紹介されました。

です。親同士が気軽に話せる場所でありたいと思います。里親になろうとする人や、関心のある人にどんどん参加してもらえたら、一人でも里親さんが増えるのではないのでしょうか。  
里親の方、いっしょにおしゃべりしませんか。

### 第3回里親セミナー



◆日時 平成20年2月16日(土) 午後1時30分～4時20分

◆場 所 香芝市連坂一三三(四一)

◆内 容 講演 体験発表 質疑・応答

◆対 象 里親に関心がある方

◆参加費 無料(託児は10名まで・要申し込み)

○詳細はホームページにてお知らせしています。

### 読み聞かせ会 を開催 — 8月

8月11日(土)第2回里親サロン、夏休み親子会を奈良市生涯学習センターにて開催しました。当日はお盆休みと重なり、少ない参加となりましたが、楽しいひとときを共に過ごす事ができました。

今回は、絵本読みかかせ会と題して、野の花文庫の主催者、藤井幸子さ

んをお招きしました。童謡を歌ったり、楽しい手遊びを織り交ぜながら、絵本の楽しさをわかりやすくお話下さいました。藤井さんは、いつでも誰でも、気軽に本を手にとつて読める場として、30年に渡り、自宅を開放され、絵本の大切さを広めてこられました。

度も何度も同じ本を、繰り返し読んでもらうことで、安心感を得るそうです。幼児期の子どもはたくさん絵本に出会う事で、豊かな心が育つようです。ついつい面倒になりがちですが、親もゆつくり楽しんで、絵本と向きあえたらいいなと思えました。

子どもは、本の内容だけでなく、大人、親に読んで聞かせてもらうという行為そのものや、何

来年もまた絵本の会を持ってたらと思っていますので、是非ともご参加下さい。

### 過去と現実

丁子

私は今、里親のAさん宅に来て5年。ここに来た当時まだまだ未熟な感じで素直じゃないし、かわいくないし、単語の果てには言い訳ばかり。めちゃくちゃな性格だった。だいたいいつから、素直じゃないところが一番の欠点だった。何か言われたら言い返し、売り言葉に買い言葉。それですごくおじちゃん、おばちゃんにも怒られたし、注意された。

前はいいい言われると、何でうちばっかりかとか、何でそんな事で怒るの、反省の色はまったく無かった。それどころか、怒られたり、注意されている意味も全然分からなかった。だけど、少しずつ変化が出てくるようになった。2年くらいたって、私が中2になった時、反省したりして、自分の心の中で見つめ直すように努力していた。今までは自分の心が悪いんだ、いけないんだって事がわかんなかった。それが少しずつ分かるようになってきた。中3までにはすごくがんばって直していた。その間に少しだけ、

空気が読めるようになって、いつのまにか人を助けてあげたり、まだ自分たちより辛い子はたくさんいると、周りの子の相談ののってあげたりした。でも、その子に同情しすぎて一緒に泣かれてしまいがちなところもあった。だから、それからはその人に流されて自分まで生活リズムを崩さないように気をつけていきたい。

最後に喜怒哀楽のあるよい生活をしていきたいです。これからは過去の自分を捨てて現実に立ちつために。



里親交流会を開催  
— 9月

9月21日(土) 青少年野外活動センターさんさいの里で、里親交流会が開催されました。

当日は連休の初日という事で、参加者も少ないのでと心配されましたが、お天気にも恵まれ、会員26名、子ども23名、関係者9名の参加がありました。

開会式では、最初に子どもたちによる旗揚げ式(入山式)が行なわれ、初めての旗揚げに恥ずかしがりながらも元気に綱を引いていました。

次に丹出副会長より「よいお天気に恵まれ、近く、遠くから大勢の方がご参加下さりありがとうございます。」



わいわいガヤガヤ食材準備



♪♪ ドングリころころサー大変♪♪

います。すがすがしい自然の中で大いに楽しんで下さい」との挨拶があり、続いてスタッフの紹介、諸注意、会員同士の自己紹介へと続きました。

このキャンプ場での交流会は今年で3回目、奥さん方による食材準備、子どもたちのご飯炊き、旦那さんたちの食事場所作りなど、すべてが大変手際よくできました。

ここで交流会の裏方さんの声を紹介します。◆秋の暖かい日差しの中、子どもさんや大人の方がキャンプを楽しむにこの「さんさいの里」へ来られました。

私も里親キャンプのスタッフは3回目です。当初は、どんな方たちが来られるのかと緊張しましたが、喜んでくれるかな、ち

よつと不安だなとか、いろんな意味で思いました。でも、だんだんキャンプをしていくうちに、皆の顔が笑顔に変わっていくのです。それに気づいたとき、スタッフをしてよかったな、喜んでもらえたんだな、と私たちもうれしくなりました。

(ア・シ)

第53回  
全国里親大会に参加  
— 10月

10月17日(日) 全国里親大会が岩手県盛岡市市民文化ホールで開催されました。奈良県からは4名参加し、全国からは450名が集まりました。

この大会は里親一人ひとりが家庭や子どもを取り巻く現状を十分に理解し、社会的養護の今日的課題に的確に取り組むことができる様にするとともに、家庭での温かい生活を必要とする子供たちの存在を社会にアピールすることにより、里親制度の一

スタッフの皆さん、楽しい一日を、有難うございました！

〈当日のプログラム〉

- ・開会宣言
- ・旗揚げ(子ども参加)
- ・挨拶・日程説明
- ・スタッフ紹介
- ・記念写真
- ・参加者自己紹介
- ・昼食準備
- ・昼食(バーベキュー)
- ・焼き板クラフト
- ・キャンプファイヤー

層の発展を目指すということで開催されました。

式典・顕彰のあとに行政説明(厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課)、「児童の社会的養護体制に関する現状と課題」を報告されました。

社会的養護に関する背景・現状・構想検討会の中間取りまとめ・具体的施策です。支援の拡充に取り組む必要性があると報告されました。

基調講演は京都医療少年院精神科医・岡田尊司氏で、テーマは「どの子どもにも希望のある社会を、傷ついた心の再出発」でした。先生は、医療少年院で

非行や犯罪だけでなく、疾患という重荷を背負った子どもたちの治療をされています。その中には親からの虐待やネグレクトを受けて心に深い傷を負った子どもたちも少なくないそうです。最大の要因は養育の問題であり、命がけの立ち直りの中で傷ついた心の再出発をめざしている姿に教えられたことでした。

午後からのシンポジウムでは、「なぜ里親かく子どもを健やかに育てるために」というテーマで行われました。

シンポジストは5名(専門里親・高橋さん、里親・向井田さん、善友乳児院家庭支援専門相談員・平原さん、みちのくみどり学園園長・藤澤さん、盛岡家庭裁判所首席家庭裁判所調査官・塩澤さん)です。

助言者は社会福祉法人潤沢会理事長・坂巻さん、コーディネーターは岩手県福祉総合相談センター所長・赤羽さんでした。高橋さんは里親の必要性と重要性について、向井田さんは子育てをふり返って、平原さんは里親



開会式で岩手県里親会会長さんが挨拶

制度が子どものための制度であるために里親と施設の協働をめざして、藤澤さんは里親養護の現実的活用(児童養護施設の立場から)、塩澤さんは家裁調査官の立場から養子縁組制度の現状と課題、里親制度への期待、それぞれに話されました。学ぶものが沢山あり、里親制度の必要・重要性を感じるものでした。

お帰りなさい、里親の里！

子育ての心模様をお聞かせ下さい。(メールで編集部まで)



## ☆奈良県の動き☆

## 第2回里親基礎研修会を開催

平成19年度の里親基礎研修会が、9月8日(土)橋原にある大和育成園を会場に開催されました。

奈良県中央子ども家庭相談センター岸岡所長より挨拶があり、次に、奈良県中央子ども家庭相談センターの倉西係長より「里親制度と養育の基本について」と題して、法的側面を中心に奈良県の養育里親、養子里親の現状について講義がありました。

見直しや、拡充してきた状況と奈良県における里親の比較、変遷について奈良においては、決して里親制度が充実しているとは言いが、近年養子里親ばかりでなく養育里親が増えてきているグラフを紹介しながら説明があり、実態を分かりやすく知ることができました。

いながら子どもたちとごす施設の実情がよくわかりました。子どもを取り巻くさまざまな問題は増加しているが、親(保護者)と一緒にその問題解決に取り組んでいかなければならない、との説明がありました。

子どもに掃除させようとするのではなく、まずは自分自身の学習機とそのスペースを大切にすることを育てることを主眼にして、生活している施設を綺麗にしようという自主的な気持ちを持っていくことが大切であるとの話があり、深く感銘しました。

## 週末・季節里親体験記

## 6歳の子どもとの絆

この夏、我が家に初めて6歳の男の子が泊りに来ました。  
子どもの心は柔軟でさわやか。大人の私たちが忘れてかけているものを取り戻した気がしました。  
家族が家族として大切な絆を、あらためて見つめなおすきっかけになりました。

はなびや、か、か、あもほい、い、いば、べ、も、や、た、ふ、る、お、い、ち、の、し、か、あ



6歳・Y君

夏休みや冬休みなどに児童養護施設で生活している子どもにも、お泊り会を通じて家庭生活を体験してもらおう、ふれあい里親(週末・季節里親)の制度が

出来ました。  
1泊り3泊の短期間なら里親が出来る方は、是非、事務局までお問い合わせ下さい。

## 随想

## 玉章

たよナ

## ミャンマーの子らを思う

今秋、ミャンマーの政情不安に思うことがあります。彼の国は貧しい国です。今、戦争でもないのに、最貧の国とさえいわれています。

もう、忘れ去られようとしていますが、先の大戦のミャンマーでの日本軍(ミャンマーを主としたインパール作戦部隊全体として)の死者は十九万人です。メッティーラの会戦と呼ばれる戦いで多くの命が奪われました。その遺骨の大半は未だ、この国の赤い大地に埋もれています。政府間のパイプは弱く、民間交流も薄いこの国に、アジア仏教徒協会(略称ABA、本部佐賀県)は、立派なバゴダを建てました。メッティーラの地に寺院と共に建立したのです。バゴダとは大仏塔で、古来ビルマやタイでは先祖供養の象徴の塔なのです。

日本兵を含む全戦没者を慰霊し、国籍や宗教を越えて世界平和を願う塔として建立したものです。

そして、常日頃それを守ってくれているのが、この国のお坊さん達です。寺院と僧侶は、大層誇り高き存在です。この国の9割が仏教徒で、その1割が僧侶であるという、他国では類を見ない人口比率の状況を理解しなければなりません。政情不安の中、若い仏教徒が多数デモを繰り広げ、逮捕されたのには心を痛めます。

一昨年、私もABA随行団の一員となって、この国を訪問しました。このときは「ミャンマー子ども基金」の設立レセプションが、ヤンゴンで執り行われました。貧しい家庭の子供に、奨学金や医療費を援助しようというものです。メッティーラの貧しい地区に、ABAが援助して設立された学校があり、その教育現場を視察しました。国語の授業では、子ども達が元気一杯に声を張り上げていたのが印象に残りました。

ミャンマーには仏教寺院に子どもを預けるという慣習があり、それは今でも行われています。家庭が幼い

子どもを、いわば里子に出して、寺院がその子を育てているとも言えます。寺院では子ども達の教育には力を注いでいます。寺院は、寺子屋としての役割を果たしているとも言えます。文盲の人が多く、僧侶こそが学歴が高いという理由が解ります。

寺院に預けられた子ども達の大半は、得度して僧侶になることを目指します。ところが、得度せずに家に戻ってしまう子どももかなり多いのです。このように得度せずに家に戻ってしまう子どもは、寺院に数年間の里子、あるいは短期養育の里子に出されたのと同じであるとも言えます。しかし、寺院は一般家庭の里親とは違いますから、子ども達に対する細やかな対応までは、充分であるとは言えないようです。寺院にいる間、勉学は進んでも養育という面では不十分であり、それが、子どもの成長にどう影響を及ぼすか、実態もあまり調査されていないようです。

旧文化と新文化を取り混ぜて歩む、ミャンマーの子ども達の未来が、明るいことを願います。

(監事 葛西 謙)